



糸満海人の
歴史・文化を世界に発信

NPO法人ハマスーキ

■事業目的

沖縄の海人文化の保存・
継承活動を核にした
まちづくり事業を
持続的に発展させるための
組織強化事業



Strategy

■事業戦略

Home

Goal

Strategy

Project 1 / 2

Outlook

1st Step



2nd Step

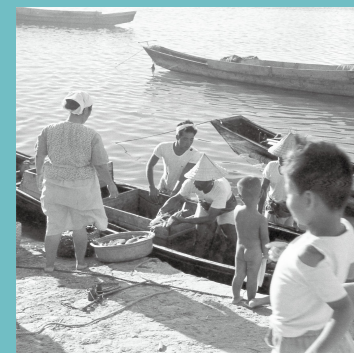


3rd Step



プロモーション

人の
ネットワー
ク化



残す事業

Project 1

■プロジェクト 1

“活かす &
生かす”
事業 ①

【体験メニューの実施、ブラッシュアップ】



修学旅行プログラム
海人文化体験プログラム



防災キャンプ

実績（修学旅行、その他体験プログラム含む）



680名



634名

Project 1

■プロジェクト 1

“活かす &
生かす”
事業 ②

Home

Goal

Strategy

Project 1 / 2

Outlook

【デザイン開発】



Project 1

■プロジェクト 1

“活かす &
生かす”
事業 ③

Home

Goal

Strategy

Project 1 / 2

Outlook

【海人の道具制作キット開発】



Project 2

■プロジェクト 2

“残す”事業 ①

Home

Goal

Strategy

Project 1 / 2

Outlook

【情報の保存方法の検討】



Project 2

■プロジェクト 2

“残す”事業 ②

[Home](#)[Goal](#)[Strategy](#)[Project 1 / 2](#)[Outlook](#)

【Webサイト制作】

[🔄 ハマスーキについて](#)[🏠 施設](#)[🚤 体験プログラム](#)[🖼️ WEBギャラリー](#)[📖 各種手続き・報道](#)

Topics

新着情報

- ①令和3年度報告会【PDF】
- ②海人の証言記録「海人のことづて」スピーカー募集のお知らせ
- ③2022年企画展・イベントの予定について



SpecialEvent

……

資料検索はこちらから

ミーカガン



ミーカガン

資料番号： ー
分類： 実物
制作時代・
年代：
寸法：
員数：

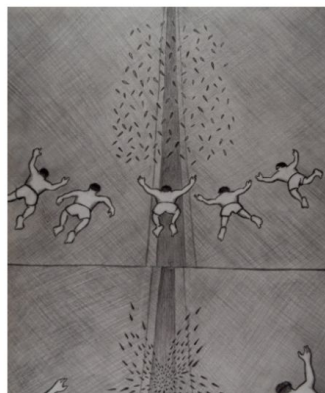
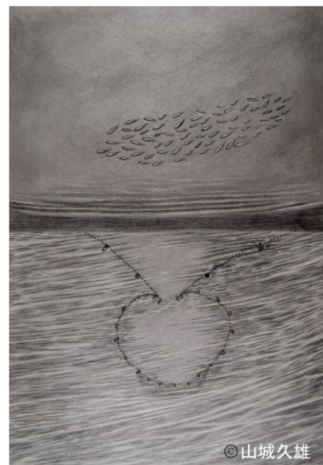
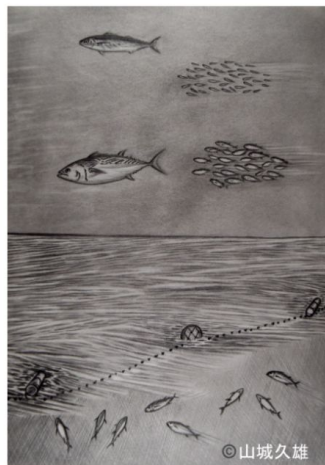
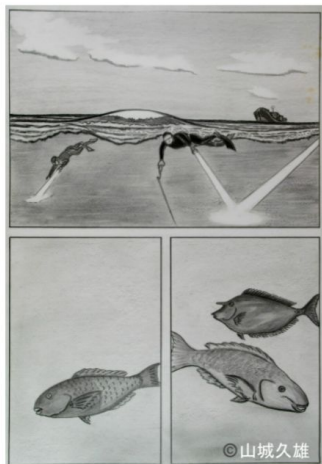
解説：①潜り漁で使われた両眼式的水中眼鏡。1880年代前半に糸満漁夫の屋号「鍋佐」の玉城保太郎が、ハマスーキ（モンパノキ）を利用して眼鏡の枠を作り板ガラス片をはめ込んだミーカガンを考案。このミーカガンの登場により、追い込み網漁や採貝漁業が飛躍的に発達し、糸満の漁獲漁が増大した。本資料館で所有する「ミーカガンおよび製作具一式」は、屋号カマラクチンダグワの金城勇吉が製作したミーカガンとその製作具で、金城没後に親族から譲り受けた。2019年に糸満市有形民俗文化財に指定されている。



資料検索はこちらから



山城久雄一鉛筆画



資料検索はこちらから

キーワードを入力



写真



資料検索はこちらから

キーワードを入力

検索



糸満の風景や人々の暮らしに関心を寄せ、当時大変貴重だったカメラを給料2か月分の金額で購入し、漁港を中心に漁に向かうウミンチューや港での水揚げ風景、カミアチネーの女性、クジラ工場の作業風景などを撮影しました。

「当時の糸満は、生き生きとして活力に溢れていました。日本製のフィルムは高価で、米軍基地内の売店から知人を通して安いフィルムを手に入れることができたので、これだけの作品が残せたと思います。」また、「誰もがカメラを向けると撮影に応じてくれました。通りひとつとっても毎日表情が異なるんですよ。」と話していました。



資料検索はこちらから



ハマスーキについて

▶ ハマスーキの思い

▶ ハマフーセの思い

海人のことづて ～歴史と証言記録～



序章



第1章
糸満の歴史的成り立ち



第2章
糸満のまちと海人を知る



資料検索はこちらから

キーワードを入力

検索



第3章
戦時中・終戦直後の海人の記録



第4章
戦前・戦中・戦後を生き抜いた糸満人



第5章
糸満海人の移住とその後の活躍



ホーム » 第5章 3. 八重山生まれの

第5章 3. 八重山生まれの

NPO法人ハマスーキ設立当初からの役員である上原孝夫さんは、1943年糸満漁夫の子として八重山諸島黒島の伊古で生まれ、幼少期を黒島で過ごし、5、6歳のころに母親とともに糸満に引き揚げた。黒島でのことは幼かったので、断片的なことしか覚えていないと言う孝夫さんに、島での暮らしや引き揚げの様子などについて聞かせてもらった。

話者：上原孝夫さん 1943（昭和18）年生まれ。短大卒業後、叔父の経営する（資）マルタケ製麺での勤務を経て、居酒屋「美山鷺」等の飲食店経営や沖縄ツアーリスト初代糸満営業所長、（株）大同火災海上保険の代理店を開業。その傍ら糸満市商工会の法人化や青年部の設立、ダイエーの誘致及びショッピングセンターの開設、糸満泡盛同好会結成等に尽力。NPO法人ハマスーキ設立当初から役員としてハマスーキの運営を支えている。



〈黒島ナガンニ〉と呼ばれる

孝夫さんの実家は〈 〉と呼ばれる。正式なヤーンナー（屋号）は〈 〉だが、黒島で漁業をしていたので、〈 〉と言った方が周囲には分かりやすいと孝夫さんは説明する。代々漁業を家業としてきた〈 〉の家人が、黒島で暮らすようになったのは、祖父の鍋さんの代からだという。



資料検索はこちらから

キーワードを入力



Project 3

■ 取り組み 3

協働・支援

Home

Goal

Strategy

Project 1 / 2 / 3

Outlook



未来づくりサポーターz制度

Next Challenge



ご静聴
ありがとうございました

